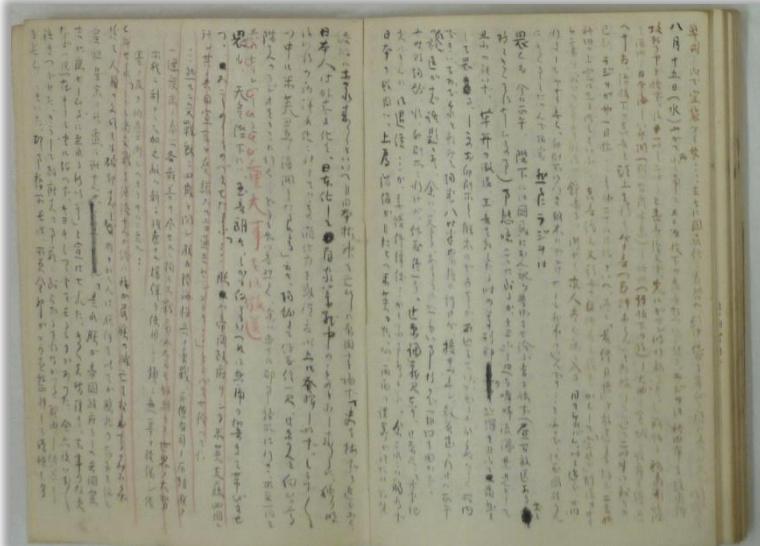


## 終戦、そして復興へ

### 玉音放送

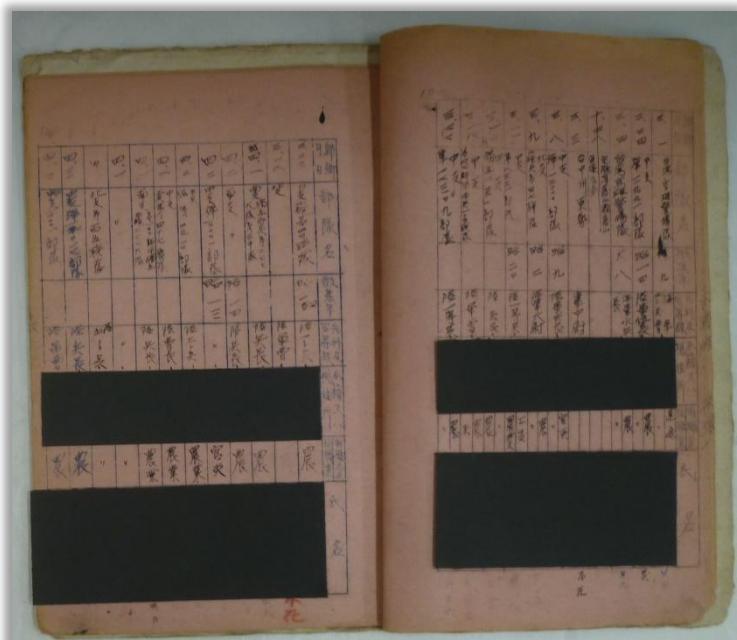
昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日正午、社団法人日本放送協会（現在の NHK ラジオ第一放送）を通して、昭和天皇自らがアジア太平洋戦争終決を国民に伝えたもの。御前会議の裁可を得て、14 日に完成した終戦詔書を朗読する形式をとりました。同日午後に宮中の一室で録音準備が行われ、18 時から録音予定でしたが、実際に天皇陛下が部屋に入ったのは 23 時 25 分だったことが『昭和天皇実録』によって明らかになっています。



#### 田口松圃日記

戦前に大曲町長を務めた田口松圃の日記。昭和 20 年 8 月の日記には戦争や空襲に関する記述が多く、戦争末期には空襲など戦争に関わる記述を朱書きしている。15 日の記述では、玉音放送を聞いた感想などを述べている。

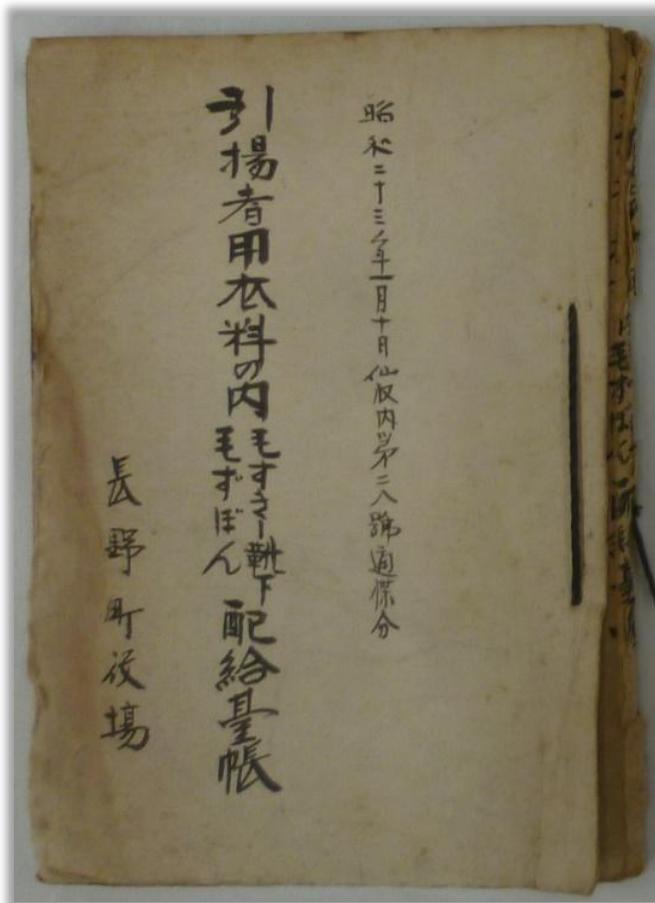
昭和 20 年 田口松圃家資料



#### 復員者名簿 長野町役場文書

召集解除された兵士が帰郷した際に作成された名簿。帰郷の日付、部隊名、徵集年、兵科及び官等級、本籍又は住所、前職・後職、氏名が調査された。

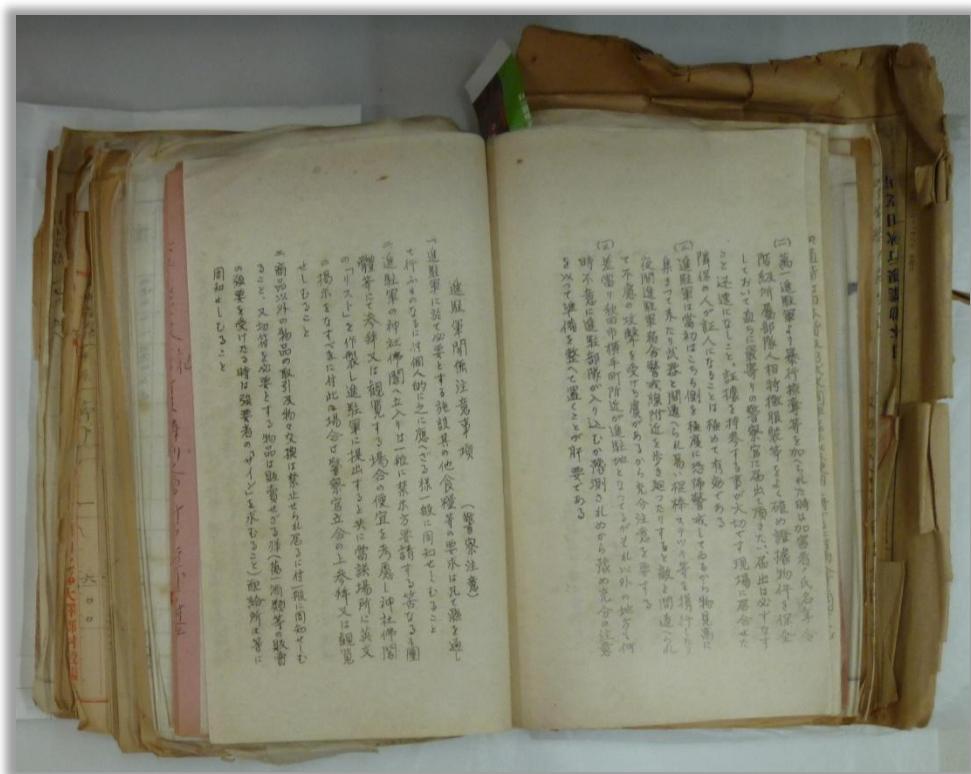
昭和 21 年 中仙町役場文書



引揚者用衣料の内  
毛すき一靴下・毛すぼん配給台帳  
長野町役場

引揚者用衣料の配給について、  
配給者ごとにまとめられた台帳。

昭和 23 年 1 月 10 日 中仙町役場文書



昭和二十年一月 庶務事務簿

終戦の年の庶務事務簿。前半には戦死した兵士の埋葬や  
戦時下の暮らしに関する事務書類が綴られている。一  
方、後半は進駐軍に関する注意事項など、戦後の人びと  
の生活に関する内容となっている。

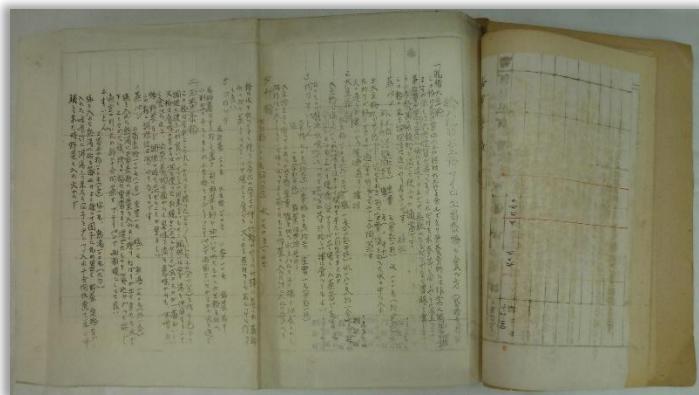
昭和 20 年 大沢郷村役場文書

## 連合国軍（GHQ）統治下の日本

昭和 20（1945）年 9 月 2 日、横須賀沖の戦艦ミズーリの艦上で、日本政府は連合国軍に対する降伏文書に調印しました。これにより、日本は連合国軍総司令部の占領下に置かれることとなり、日本の非軍事化と民主化が実施されていきました。総司令部元帥のマッカーサーによる五大改革の中に含まれていた「参政権付与による日本婦人の解放」はいち早く議論され、同年 10 月に閣議で話し合われ、翌 21 年 4 月の衆議院選挙で日本初の女性代議士 39 名が誕生しています。

また、GHQ により国民主権と軍事力放棄が盛り込まれた日本国憲法が昭和 21（1946）年に公布、翌年施行されると、新たな憲法のもと農地改革も本格化しました。戦中からはじまっていた自作農創設を実施するため、同年には自作農創設特別措置法を制定し、地主が保有する農地は政府が強制的に安値で買い上げ、小作人に売り渡されることとなりました。これにより、戦後日本の農業生産高は飛躍的に増進しました。

また占領下で行われた極東国際軍事裁判では、A 級戦犯容疑で約 100 名が逮捕され、そのうち 7 名が死刑、16 名が終身刑の判決を受け、約 5,600 名の BC 級戦犯が抑留されました。



連合軍好意 輸入米穀配給台帳  
アメリカ等連合国から輸入された米穀の配給台帳や食べ方などについて通知した文書の綴。脱脂大豆粉やとうもろこし粉を蒸しパンやすいとんにする食べ方が紹介されている。

昭和 22 年 大沢郷村役場文書



太田に来た進駐軍（個人所蔵）  
太田町史編さん資料

## 復興宝くじ

戦後の復興宝くじは、アジア太平洋戦争末期、軍事費調達のために昭和20（1945）年に売り出された富くじ「勝札」を起源としていると言われています。終戦により「負札」と呼ばれるなど縁起が悪かったため、戦後のインフレ防止のための措置として10月に発売したものを政府が「宝くじ」と命名、これが定着していきました。

戦災によって荒廃した地方自治体の復興のため臨時資金調整法が改正され、各都道府県で独自の宝くじを発売できるようになると、昭和 21 (1946) 年 12 月に地方宝くじ第 1 号として「福井県復興宝籤」(別名「ふくふく籤」) が登場。翌年、法律は GHQ の要求で廃止されましたが、インフレ抑制のため宝くじ制度が存置されると、以後も各地で復興宝くじが発売されました。政府宝くじは昭和 29 (1954) 年に廃止、現在は地方自治体が独自・共同で発売する自治宝くじだけが残っています。

復興宝くじで集まった資金は、道路復旧などの戦後復興資金として利用されました。

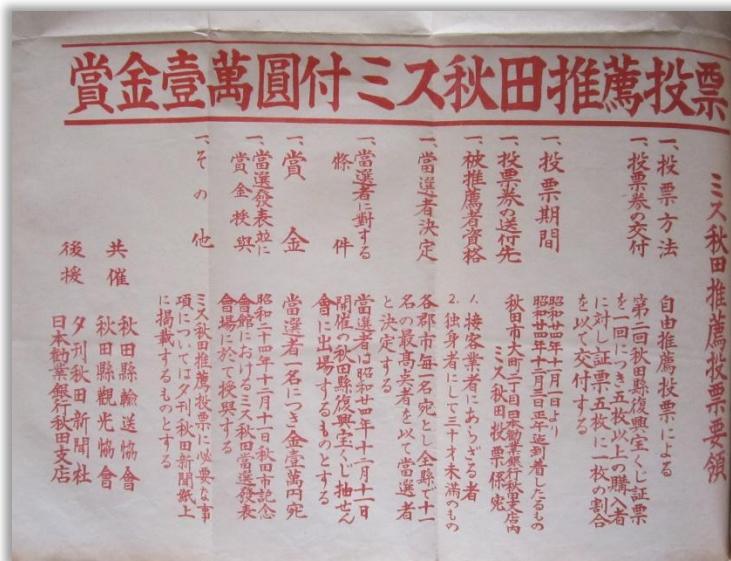


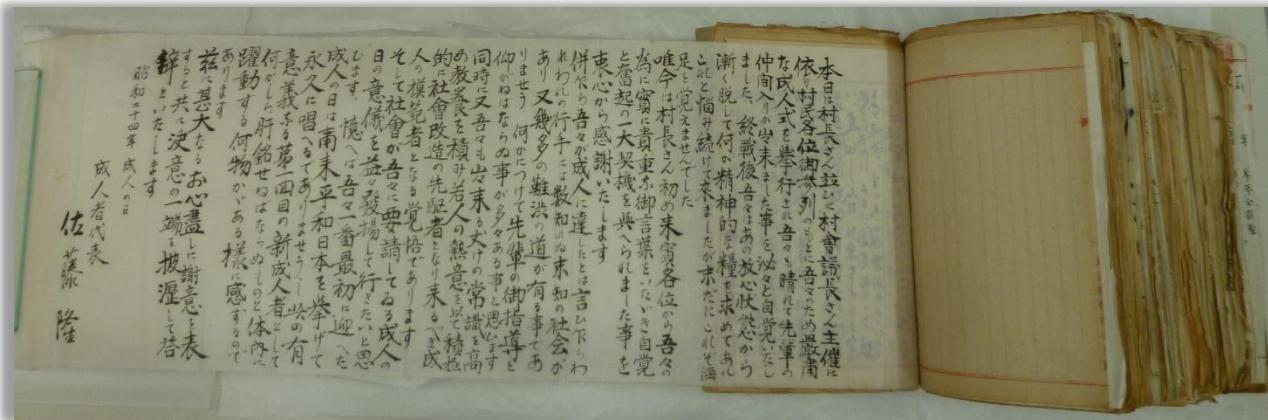
第四回 秋田県道路復興宝くじ

秋田県独自の復興宝くじ。特等は 30 万円 1 本、残念賞は 3 万円 14 本、7 等は 10 円だった。

昭和 27 年 渡邊勝巳資料

ミス秋田推薦投票要領  
おばこコンクールより3年  
早い昭和24年に復興宝くじ  
の一環で開催された。  
昭和24年 大沢郷村役場文書





昭和二十四年 度庶務事務簿 大沢郷村

昭和 24 年 1 月に大沢郷村で挙行された第 1 回の成人式において、成人者代表が読み上げた挨拶文の原稿。終戦後の放心状態からようやく脱した思いや、これから先に待っている未知なる社会に対する新成人の覚悟が読み取れる。

昭和 24 年 大沢郷村役場文書